

# SAPPORO 教区 NEWS

第18号

2012年1月1日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部  
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

主の御降誕の恵みが、被災地の皆様の上に、教区の皆様の上に豊かにありますように！  
これからも、被災地の方々と手を携えて歩んで行きましょう！

東日本大震災から九ヶ月を迎えて、新たな支援活動の拠点が、岩手県大槌に開所。日本のカトリック教会は、心をひとつにして被災地の皆さんのために祈り、支援活動を今後も続けていきます。

三月十一日に発生した東日本大震災から十二月十一日で九ヶ月を迎えました。日本のカトリック教会は、今まで、心を合わせて被災地の皆さんのために祈りを捧げてきたと同時に、被災地にボランティアを派遣し続け、物資を支援してきました。

震災直後から、日本のカトリック教会は、仙台教区サポートセンター（仙台教区とカリタスジャパンを中心に立ち上げ）を中心に、被災地・被災者への支援活動を行ってきました。そして、七月には、管区ごと（東京管区は福島、大阪管区は宮城、長崎管区は岩手）に、担当する支援地域を決めて、今後も継続的に被災地・被災者を支援していくことを決めました。

また、札幌教区でも四月八日に上杉昌弘神父を中心にサポートセンターを立ち上げ、四月十一日から宮古へのボランティア派遣や物資の支援を行ってきています。九月からは、移動カフェとサロンを仮設住宅で行っています。（詳細は後記一覽を参照ください。）

## 教皇特使としてサラ枢機卿 被災地を訪問 — 祈りと連帯のメッセージ携えて —

ローマ教皇ベネディクト十六世は、三月十一日に起きた「東日本大震災」の未曾有の大災害に鑑み、教皇としての連帯と祈り、支援を伝え、またすべての犠牲者の遺族と被災者、そして復興を支援する人々への精神的な一致を表すため、ご自身の代理として教皇庁・開発援助促進評議会（Pontifical Council 'CorUnum'）議長のパベル・サラ枢機卿（65）を、五月十三日から十七日にかけて日本に派遣しました。この教皇庁「開発援助促進評議会」は福音の精神に基づく教会の人道的援助を促進するため、教

皇パウロ六世が一九七一年に設立した教皇庁の機関で、世界各国の援助事業団体を指導し、必要地域の援助に協力する任務を担っていて、サラ枢機卿はその責任者の要職にあります。

十三日に日本に到着した枢機卿は、翌十四日の早朝から、車でさいたま教区（谷大ニ司教）が福島県いわき市における支援活動の拠点として「湯本サポートステーション」を訪問、活動状況を視察した後すぐに東京へと戻り、同日十五時から東京大司教区カテドラル関口教会において、日本カトリック司教協議会（会



長・池長潤大司教）が主催する「教皇ヨハネ・パウロ二世列福感謝ミサ」に臨席しました。そしてミサ後は休むまもなく、東京駅から新幹線で被災地の仙台教区へと向かい、仙台では「仙台サポートセンター」を訪問、平賀徹夫・仙台教区司教との共同ミサをささげるなど被災地の信徒と心を一つにされました。ミサ後、悲しみと喪失の苦しみを言葉に出せず黙ってすがりついてきた信徒を、サラ枢機卿は長い時間、慈父のごとく静かに抱きしめる場面も見られ、周囲に大きな感動を与えました。また、津波被害の大きかった景勝地・松島では海上から船で被災の惨状を視察、船上から聖水と献花をささげて「神よ、犠牲となった方々に永遠の安息を与え給え」とイタリア語で祈りをささげました。サラ枢機卿は教皇特使として過密な日本滞在を終え、十七日午前、ローマへと戻りました。

## 東日本大震災に係るカトリック教会の主な動き（抜粋）

### ▼カトリック教会全体の主な動き

- 12月13日 大槌ベース（長崎教会管区の活動ベース）開所ミサが行われる。石巻ベース、米川ベース、釜石ベース、宮古ベース（札幌教区）に加えて新たな活動拠点ができた。
- 12月11日 大震災後9ヶ月を迎える
- 9月11日 日本のカトリック教会で被災地の皆さんのために祈りをささげる。
- 7月11日 全国の東日本大震災復興支援担当者が仙台カテドラルに集まり、全国会議（All Japan）を開催。被災者に追悼ミサを捧げ、復興支援のための全国会議を開催し、今後の対応を話し合う。管区（東京・大阪・長崎）ごとに被災地を担当して支援することで動き出す。
- 6月6日 仙台教区の平賀徹夫司教から、大震災発生3ヶ月にあたっての祈りのお願い
- 5月17日 教皇庁開発援助促進評議会議長ロベール・サラ枢機卿が、仙台カテドラルでミサ。松島の遊覧船上から被災者のため祈り、花束を献花。
- 4月23日 池長潤・日本カトリック司教協議会会長が復活の主日にあたって談話を発表
- 4月13日 聖金曜日・主の受難の祭儀の盛式共同祈願に被災者への祈り加える
- 4月7日 教皇司式の主の晩餐のミサの献金が東日本大震災の被災者へ送られる
- 4月4日 仙台教区内の教会や関連施設等の被災状況をGoogleマップに掲載
- 4月4日 日本カトリック司教協議会会長の池長潤大阪大司教がメッセージ発表
- 4月1日 教皇庁移住・移動者司牧評議会が「日本の津波被害者のための船員司牧特別基金」を新設
- 3月30日 広島教区が災害サポートセンターを開設
- 3月29日 カリタスジャパンが東日本大震災支援に関するブログを開設
- 3月25日 日本カトリック医師会が東日本大震災救援基金を開設
- 3月20日 東京大司教が「東日本大震災の外国人被災者、避難者への支援」のお願い
- 3月19日 さいたま教区サポートセンター開設
- 3月18日 平賀徹夫仙台司教がビデオメッセージ発表
- 3月18日 池長潤・日本カトリック司教協議会会長「日本のカトリック信者の皆さんへ」呼びかけ
- 3月17日 仙台教区「東日本大震災募金の呼びかけ」のお願いと、見舞金の受付を開始
- 3月17日 仙台教区サポートセンターを設置
- 3月16日 教皇が地震被災者のために15万ドルを寄付
- 3月14日 教皇庁福音宣教省長官イヴァン・ディアス枢機卿から被災者へ見舞いのことばが届く

- 3月14日 教皇ベネディクト16世が東日本大震災被災者への支援を呼びかける
- 3月14日 カリタスジャパンが東日本大震災被災者救援募金の受付開始
- 3月12日 教皇ベネディクト16世から東日本大震災被災者への見舞いのことばが届く

### ▼札幌教区の主な動き

- 12月12日 震災関係のお知らせ第6報を発行
- 12月1日からボランティア派遣の交通費を、当面の間全額補助（ボランティア減少に対応）
- 11月末まで約170名の方々にボランティア登録を頂き、宮古ベースに週換算で述べ約270名のボランティアを派遣
- 8月5日 宮古でのヴァイオリンコンサート開催を支援
- 8月2日～11日 福島の親子に北海道で思いっきり遊び、健康を回復してもらおうとする「北の大地ですごす夏休み」の開催を支援
- 7月24日 開催の第3回「分かち合いマーケット」に支援物資を提供
- 7月15日 ボランティアの募集要項の改訂
- 6月22日 東日本大震災支援に関するお知らせ（第5報）
- 6月17日 ボランティア報告会を札幌のベネディクトハウスで開催
- 6月10日 震災関係のお知らせ第5報を発行
- 6月4日 開催の第2回目の「分かち合いマーケット」に支援物資を提供
- 5月連休明けボランティア経験者5名と上杉神父様を含め後方支援が本格スタート（ボランティア申込者への連絡し派遣日の決定、支援物資の調達、フェリーの予約等）
- 4月28日 開催の第1回「分かち合いマーケット」に支援物資を提供
- 4月22日 宮古市へのボランティア派遣の経過報告と、現地での「分かち合いマーケット」開催への支援のお願いとして、震災関係のお知らせ第4報を発行
- 4月11日 ボランティアの先遣隊を派遣。その後、毎週、日曜日か月曜日の夜に札幌を出発するボランティアを宮古ベースに派遣。宮古市、山田町など近隣で支援活動を実施。
- 4月8日 教区の今後の被災者支援の方向性と、ボランティア募集開始（震災関連のお知らせ第3報）を発行
- 4月8日 札幌教区サポートセンターを立ち上げ、ボランティア派遣等の被災者支援を開始する
- 3月18日 仙台教区の続報（震災関係のお知らせ第2報）を発行
- 3月18日 教区管理者菊地功司教から被災地への祈りのメッセージ発行
- 3月14日 カリタスジャパン東日本大震災支援募金の案内と仙台教区の様子（震災関係のお知らせ第1報）を発行

## ▼宮古ベースの主な動き

- 11月末で、週換算述べ270名のボランティアを受け入れる。
- 12月25日頃宮古ベース News Letter 第4号発行予定
- 支援ボランティアの人数が、仙台教区サポートセンター共々減少傾向。まだまだ瓦礫の撤去が終了していないところも多くあります。今後とも継続して、皆様のご協力をお願いします。
- 10月19日 宮古ベース News Letter 第3号発行
- 9月1日 宮古社協の依頼で常設サロン（被災者からの声を聴く場）を開始
- 8月25日 宮古ベース News Letter 第2号発行
- 7月25日 宮古社協の依頼で仮設住宅での移動カフェを開始
- 7月24日 第3回目の「分かち合いマーケット」を開催
- 7月5日 宮古ベース News Letter 第1号発行
- 6月11日 震災から3ヶ月目。被災者への追悼を祈る。その後も、毎週ボランティアが到着し、宮古市社協と山田町社協のボランティアセンターを通じた作業や、教会関係者からの要望で個人宅やお店の撤去作業、清掃作業などを行う。
- 6月6日からの週第8陣7名と継続の2名。
- 6月4日 第2回「分かち合いマーケット」開催。
- 5月30日からの週第7陣4名と継続の2名。宮古での側溝清掃、山田町で被災地内での拾得物写真の洗浄や瓦礫の撤去、物資センターでの仕分け作業。宮古市のボラセンでも平日の県外ボランティア募集を開始。
- 5月23日からの週第6陣6名と継続の2名。山田町で個人宅の清掃、汚泥撤去。中古自転車2台寄贈。28日開催の地元のパザールに物資提供。6月4日開催の分かち合いマーケットの打合せ。
- 5月16日からの週第5陣6名が到着。山田町の避難所の清掃、個人宅の畳の清掃、濾過機の洗浄、汚泥の撤去。炊き出し復興キャンペーンに参加しジギスカンを提供。好評を得て次回（6/4）もジギスカンを提供することになる。マンフレード神父が支援物資持参し来訪。佐藤宝蔵神父が石巻教会から来訪。
- 5月9日からの週第4陣5名が到着し、山田町にて瓦礫の撤去や汚泥の撤去作業を行う。
- 5月2日からの週第3陣4名と先着2名、聖霊短大の9名。宮古市、山田町にて家屋の清掃、瓦礫の撤去や汚泥の撤去作業を行う。
- 4月28日に教会隣接の幼稚園にて第1回「分かち合いマーケット」を共催し開催。
- 4月25日からの週第2陣と引き続きの5人。山田町にて瓦礫の撤去や汚泥の撤去作業を行う。
- 4月18日からの週第1陣6名が到着。山田町にて瓦礫の撤去や汚泥の撤去作業を行う
- 4月11日からの週先遣隊7名が到着。自治体ボランティアセンターや宮古教会、幼稚園などとの打合せを行い、瓦礫の撤去や汚泥の撤去作業を行う

## ▼仙台教区内の小教区の被災状況(抜粋)

- (青森県下)
- 鮫町＝鐘楼と聖堂境目の変形、信徒館壁面等に損壊。
- (岩手県下)
- 釜石＝聖堂床上浸水。
- 久慈＝聖堂要補修。
- 宮古＝聖堂入口タイル損壊。
- 大船渡＝納骨堂が流出全壊。信徒一家族3名死亡、3名不明。信徒宅全壊11棟。半壊4棟。
- 志家＝聖堂屋根瓦破損、司祭館損壊。
- (宮城県下)
- 気仙沼＝信徒2名死亡、信徒宅15棟全壊、一階浸水1棟。聖堂要補修。その他の被害不明
- 石巻＝信徒2名死亡、聖堂要補修、信徒宅5棟浸水。
- 塩釜＝聖堂要補修。信徒宅床上浸水1棟。主任司祭ラシャベル師が過労のため死亡。
- 東仙台＝信徒宅3棟損壊。事務棟の基礎部分損壊。聖堂前舗装面損壊。
- 北仙台＝信徒宅に津波被害。聖堂内部壁面剥落、鐘楼上部に構造的損傷。
- 元寺小路＝信徒宅3棟流出。聖堂一部亀裂、剥落等の損壊。
- 八木山＝聖堂内部損壊。
- 築館＝聖堂内損壊。
- 古川＝聖堂土台が傾斜、外壁崩落。聖像落下。
- 米川＝蔵の左側側面が崩落。
- 大籠＝報告なし
- 白石＝聖堂、司祭館ともに亀裂多数。
- 亘理＝信徒一家3名死亡。信徒のご主人1名死亡。安否不明1名。信徒宅3棟流失、4棟全壊と浸水で10世帯が避難生活。
- (福島県下)
- 郡山＝聖堂基礎部と司祭館壁面に亀裂。ガラス破損。
- 原町＝屋根瓦多数、煙突破損。聖堂内壁剥落。南相馬地区は原発から30キロ圏内。
- 須賀川＝聖堂一部倒壊。
- 野田町＝煙突落下し屋根に損傷。
- 湯本＝聖堂一部損壊。
- 小名浜＝聖堂一部損傷。聖櫃落下。
- いわき＝聖像やルルドのマリア像落下。物置損壊。
- 会津若松＝聖堂の一部が破損。司祭館に亀裂多数。
- 二本松＝聖像が破損。聖櫃落下。
- 白河＝ベトナム人一家3人がアパート倒壊で避難生活。聖堂各部に亀裂、天井崩落の恐れ。

## ▼さいたま教区内の小教区の被災状況

- (茨城県下)
- 水戸＝聖堂、司祭館、修道院等の敷地内建物が使用不能。
- 大洗＝インドネシア人労働者らが避難生活。
- 鹿島＝信徒宅に全半壊の被害。

## 司教団メッセージ

## いますぐ原発の廃止を

～福島第一原発事故という  
悲劇的な災害を前にして～

日本に住むすべての皆様へ

東日本大震災によって引き起こされた福島第一原発の事故により、海や大地が放射能に汚染され、多くの人々の生活が奪われてしまいました。現在でも、福島第一原発近隣の地域から十万人近くの住民が避難し、多くの人々が不安におびえた生活を余儀なくされています。

原子力発電の是非について、わたしたち日本カトリック司教団は「いのちへのまなざし―二十一世紀への司教団メッセージ―」のなかで次のように述べました。

「核エネルギーの開発は人類にこれまでにないエネルギーを提供することになりましたが、一瞬のうちには多くの人々のいのちを奪った広島や長崎に投下された原子爆弾やチェルノブイリの事故、さらに多くの人々のいのちを危険にさら

し生活を著しく脅かした東海村の臨界事故にみられるように、後世の人々にも重い被害を与えてしまうことになるのです。その有効利用については、人間の限界をわきまえた英知と、細心の上に細心の注意を重ねる努力が必要でしょう。しかし、悲劇的な結果を招かないために、安全な代替エネルギーを開発していくよう希望します。」(1)

このメッセージにある「悲劇的な結果」はまさに福島第一原発事故によってもたらされてしまいました。この原発事故で「安全神話」はもろくも崩れ去りました。この「安全神話」は科学技術を過信し、「人間の限界をわきまえない英知」を持たなかったゆえに作りだされたものでした。

わたしたちカトリック司教団は「いのちへのまなざし」で、いますぐに原発を廃止することまでは呼びかけることができま

た。しかし福島第一原発事故という悲劇的な災害を前にして、そのことを反省し、日本にあるすべての原発をいますぐに廃止することを呼びかけたいと思います。いますぐに原発を廃止することに對して、エネルギー不足を心配する声があります。また、CO<sub>2</sub>削減の課題などもあります。しかし、なによりまず、わたしたち人間には神の被造物であるすべてのいのち、自然を守り、子孫により安全で安心できる環境をわたす責任があります。利益や効率を優先する経済至上主義ではなく、尊いいのち、美しい自然を守るために原発の廃止をいますぐ決断しなければなりません。

新たな地震や津波による災害が予測されるなか、日本国内に五十四基あるすべての原発が今回のような甚大な事故を起こす危険をはらんでいます。自然災害に伴う人災を出来る限り最小限に引き止めるためには原発の廃止は必至です。

原発はこれまで「平和利用」の名のもとにエネルギーを社会に供給してきましたが、その一方でプルトニウムをはじめとする放射

性廃棄物を多量に排出してきました。わたしたちはこれらの危険な廃棄物の保管責任を後の世代に半永久的に負わせることになりました。これは倫理的な問題として考えなければなりません。

これまで、国策によって原発が推し進められてきました。その結果、自然エネルギーの開発、普及が遅れてしまいました。CO<sub>2</sub>削減のためにも、自然エネルギーの開発と推進を最優先する国策に変えていくようにわたしたちは訴えます。また、原発は廃炉にするまで長い年月と多くの労働が必要になります。廃炉と放射性廃棄物の処理には細心には細心の注意を払っていかねばならないでしょう。

確かに、現代の生活には電気エネルギーを欠かすことはできません。しかし大切なことは、電気エネルギーに過度に依存した生活を改め、わたしたちの生活全般の在り方を転換していくことなのです。

日本には自然と共生してきた文化と知恵と伝統があり、神道や仏教などの諸宗教にもその精神がありま

す。キリスト教にも清貧という精神があります。そして、わたしたちキリスト者には、何よりも神から求められる生き方、つまり「単純質素な生活、祈りの精神、すべての人々に対する愛、とくに小さく貧しい人々への愛、従順、謙遜、離脱、自己犠牲」(2)などによって、福音の



真正なあかしを立てる務めがあります。わたしたちは、たとえ節電に努める場合も、この福音的精神に基づき単純質素な生活様式を選び直すべきです。(3)またその精神を基にした科学技術の発展、進歩を望みます。

それが原発のない安心で安全な生活につながるでしょう。

二〇一二年十一月八日仙台にて  
日本カトリック司教団

(注記)

(1)『いのちへのまなざし―21世紀への司教団メッセー

ジー』(中央協議会・2001年) p.104～p.105

このほかに原発の是非に関する日本のカトリック教会のメッセージには『ジー・シー・オー(JCO)ウラン臨界事故に関する要望書』(1999年)があります。

(2)教皇パウロ6世『福音宣教』(1975年)76「生活の真正なあかし」(中央協議会ペトロ文庫)

(3)教皇庁正義と平和評議会『教会の社会教説綱要』(2004年)486「新しい生活様式」(中央協議会)参照

## 司教団メッセージ

## 「いますぐ原発の廃止を」

## トピックスコメント

一、なぜ、カトリック  
教会が原発に関する  
メッセージを出すの  
か？二、「司教団メッセー  
ジ」について

原発については、国民一人ひとり、また、様々な立場からその是非について議論されています。採算がとれるかどうかといった経済的な立場、子どもたちの健康や市民生活の安全を守る立場、国際競争力を保持しようとする立場など。

しかし、カトリック教会は原発の是非に関する問題は倫理的な問題、人間の命の問題でもあると考えます。また、私たちはすべての人と連帯して、神の被造物である自然や環境、すべての生命を保護していく責任を持っています。以上の二つの立場から、宗教者として原発の是非について発言する責任を果たしたいと考えています。

三、なぜ、今、原発に  
ついでにメッセージ  
を発表するのか？

日本には北海道から沖縄まで十六教区があります。各教区にローマ教皇によって任命された大司教、司教、補佐司教が各教区の信徒、諸施設に対する責任を持っています。現在日本の司教は十七名。（引退司教は除く）

折々の問題について、これらすべての司教の合意を得たメッセージが司教団メッセージとして発表されます。今回のメッセージは十一月八日に仙台で行われた特別臨時司教総会において、全員の司教の合意を得て司教団として発表するに至りました。また、日本のカトリック信徒だけではなく、日本に住むすべての人々に向けた呼びかけとなりました。

四、いますぐに原発を  
廃止することができ  
るのか？

i 原発事故以来、脱原発か原発存続なのか議論され始めましたが、政府はその国民的な議論を待たずに、なし崩し的に原発存続の方向に進み始めています。再稼働への道を歩み始め、原発技術の輸出交渉なども再開されています。このような時こそ、国民的な議論によって、原発の是非について考えるべきです。そのために、このメッセージを発表することになりました。

ii カトリック教会の司教団メッセージ『いのちへのまなざし』（二〇〇一年）では、脱原発の方向を示しましたが、その存続を容認する立場でした。福島第一原発事故を目の当たりにして、司教団は原発に対するより踏み込んだ明確な姿勢を打ち出すことにしました。

五、メッセージの中の  
言葉の説明

「人間の限界をわきまえる英知」…人間の知識・技術・努力などには限界がある

り、その限界を知ることが真の英知（真の知恵）です。科学技術の分野においてもこの英知を謙虚に受け入れる必要があります。人間の知識や技術力をもってしても原発は制御できないことが起こりうることは、今回の事故でも明らかになりました。

「平和利用の名のもとに」…広島、長崎における原子爆弾の恐るべき体験から、日本人は核兵器廃絶を悲願としています。この「平和利用」という名のもとに、原発という核エネルギー利用に方向を転換しました。しかし、原発の技術は核兵器開発に容易に利用されることも指摘されています。私たちはこの点からも原発の廃止を考えるべきです。

「清貧」…物や金（欲望）に執着することのない生き方。物や金は必要と考えるのではなく、全ての神の被造物（水、自然…）の価値を正しく認め、それを大切に使い、ほかの国や人々と公平に分ち合う生き方。

「従順」…神の望みに従うことを意味します。

「離脱」…物や金や人に関わる利己主義から抜け出し、所有する(to have)を

満足から、存在する(to be)へ移行することの意味します。

「自己犠牲」…個人が欲望のままに生きるのではなく、他者・神への愛をもって自らの生活を他者・神のために捧げて生きることが指されています。個人の倫理に留まらず、地球市民として限られた資源や生産物を全ての人と等しく共有し公平に分ち合って生活すること（連帯の精神）の意味も含まれます。

六、今回のメッセージ  
では

「脱原発依存」だけではなく、「脱電気エネルギー依存」の生活転換を訴えるものです。それが、脱原発だけではなく地球温暖化への対策も含めた地球環境、人間の命を大切にすることになります。

二〇一一年十一月十日  
仙台にて

社会司教委員会  
委員長 高見三明大司教



## ★被災地への支援ボランティア募集のお願い★

◆ボランティアの参加者が減少傾向です。新年以降も継続して派遣します。皆様のご参加をお待ちいたしております。

◆冬期間は、公的交通機関（JR等）での移動となります。

（例）札幌～宮古＝8：34札幌発 ⇒11：53函館着12：04函館発⇒14：15新青森着

14：28新青森発⇒15：35盛岡着16：30盛岡発⇒18：53宮古着 徒歩10分にて宮古教会到着

◆交通費は、当面の間、相当分を札幌教区サポートセンターが全額補助致します。

◆詳しくは、ボランティア参加時のミーティング等でご説明いたします。

◆お問い合わせ先：メール officecsd@csd.or.jp FAX 011-221-3668

（メールかファックスを優先して下さると助かりますが、電話の場合は090-1525-8589上杉神父まで）

## ★募集要項★

1. 活動内容…仮設住宅での移動カフェとサロンの開催が主です。  
仮設住宅へのチラシ配布・物品運搬・会場設営・飲み物の準備・話し相手・住民ニーズへの対応・後片づけなど。  
その他、分かち合いマーケットの準備・実施など。
2. 活動場所…仮設住宅の屋内集会所（宮古市社会福祉協議会の指示による）
3. 生活環境…宮古教会に宿泊（男性ボランティアは仮設住宅＝教会から車で10分）、共同自炊（食材費はサポートセンターが負担しますが、酒類等の嗜好品は含みません）。お風呂は銭湯（銭湯や買い物は車でいきます。）
4. 持ち物…着替え、その他各自必要な用品（長靴、防塵ゴーグル等は不要）  
教会設置の洗濯機は、基本的に神父様・長期滞在者（3週間）の利用です。また、電気代節約のため乾燥機使用はご遠慮願います。薄手のシャツ2枚を持参してください。1枚は敷き布団の上に、1枚はかけ布団や毛布がよごれないよう体の上にかけます。（教会にもシャツ類はありますが、帰る日に掃除を含め現状復帰します。シャツやタオルケットを洗濯し、干し（乾きにくい）、たたみ、収納するという作業を同時に行うことは難しいです。ご協力ください。）
5. 年 齢…制限なし（これまで参加した最高齢の方は82歳女性）
6. 現地への交通手段（道内からの参加者対象）ならびに交通費補助
  - 1) 冬期間（12月～雪解けまで）ならびにボランティアが2名以下の場合、原則として、教区の手（通称エスティマ号）は使用しません。  
各自で拠点の宮古教会に行ってください。宮古教会に車を置くことはできません。公共交通機関をご利用ください。  
宮古までのJR代金（特急、新幹線を含む）の全額を補助します。
  - 2) 冬期間以外でボランティアが3名以上の場合  
原則として、教区の手（通称エスティマ号）を使用します。苫小牧西港～八戸港間のフェリーを利用します。  
交通費は全額補助します。  
なお、交通費（JR相当分）全額補助は当面の間の処置となります。支援募金を大切に使うためにご理解をお願いいたします。
7. ボランティア保険  
社会福祉協議会のボランティア活動保険に、札幌教区サポートセンターで加入します。
8. その他
  - 1) ボランティア期間の延長は可能です。現地のまとめ役にご相談ください。
  - 2) 各自十分に体調管理をしてください。体調不良の場合は、無理せずまとめ役に伝えてお休みください。戻ってからまたボランティアをしたいと思えるように、心身の健康に配慮してください。
  - 3) お酒については、被災地であることをわきまえ節制に心がけてください。ストレスのあまり大声で議論したり、ベースの運営や雰囲気や乱したり、翌日の仕事に支障を来したりすることのないよう、お互いに気を付けましょう。
  - 4) 帰ったあとで、ボランティア体験の報告や他の人々との分かち合いを通して、ボランティアに参加したいと思う人が増えるようご協力ください。
  - 5) 今後の参考のために感想文をお願いします。用紙は宮古教会集会所に備えています。
  - 6) 申込書は、小教区等にありますが従前のものをご利用ください。

# 前教皇 ヨハネ・パウロ二世の 列福感謝ミサが行われる

日本にも訪問され、わたしたちに変大大きな示唆を与えてくださった、前教皇ヨハネ・パウロ二世の列福を祝い、日本カトリック司教協議会では「教皇ヨハネ・パウロ二世列福感謝ミサ」を五月十四日十五時から東京大司教区カテドラル聖マリヤ大聖堂で行われた。



## 列福式までの動き

### ◆教皇が奇跡を認める教令を認可

教皇ベネディクト十六世は、一月十四日（金）、教皇庁列聖省長官のアンジェロ・アマート枢機卿との謁見の中で、尊者・神のしも

ベヨハネ・パウロ二世（カ  
ロール・ヴォイティワ 一九  
二〇年五月十八日―二〇〇  
五年四月二日）の執り成し  
による奇跡を認める教令を  
認可しました。同日、教皇  
庁広報部のフェデリコ・ロ  
ンバルディ報道官は、尊  
者・神のしもベヨハネ・パ  
ウロ二世の列福式が復活節  
第二主日（神のいつくしみ  
の主日）の二〇一一年五月  
一日（日）に教皇ベネディ  
クト十六世の司式で行われ  
ることを発表しました。

の殉教者、五名の尊者を宣  
言することが認められまし  
た。ヨハネ・パウロ二世の  
列聖調査は教皇ベネディク  
ト十六世によって二〇〇五  
年五月十三日に開始が発表  
され、同年六月二十八日か  
ら正式に開始しました。二  
〇〇九年十二月十九日、ベ  
ネディクト十六世はヨハ  
ネ・パウロ二世を尊者とす  
ることを宣言しました。

教皇庁列聖省が、聖人の  
列に加えられることを最終  
的な目的として、その調査  
を宣言すると、その人は「神  
のしもべ」と呼ばれ、次の  
段階でその人物の生涯が英  
雄的、福音的な生き方であ  
ったことが公認されること  
により「尊者」と宣言され  
ます。さらに「尊者」は、  
その執り成しによる最低一  
つの奇跡が認められること  
により、「福者」と宣言され  
ます。

のパーキンソン病の治療で  
す。  
◆列福準備のための前晩の  
祈り  
四月三十日（土）チルコ  
マツシモにて、午後八時～  
九時準備、午後九時～十時  
三十分前晩の祈り。尊者・  
神のしもベヨハネ・パウロ  
二世が司教を務めたローマ  
教区主催。前晩の祈りは  
ローマ教区総代理のアゴ  
ステイノ・ヴァツリーニ  
枢機卿が司式。教皇ベネデ  
ィクト十六世はビデオ中継  
を通じて参加。

### ◆列福式

五月一日（日）サンピエ  
トロ広場にて、午前十時開  
始で行われた。教皇ベネデ  
ィクト十六世が司式。ヨハ  
ネ・パウロ二世の亡骸は、  
サンピエトロ大聖堂の告白  
の祭壇前に安置されまし  
た。

### ◆感謝のミサ

五月二日（月）午前十時  
三十分、サンピエトロ広場  
にて。国務省長官タルジ  
オ・ベルトーネ枢機卿の司  
式。

新福者ヨハネ・パウロ二  
世の亡骸は、サンピエトロ

大聖堂のサン・セバスチ  
アーノ礼拝堂に埋葬されま  
す。埋葬は公式行事として  
行われません。

## 高松・大分・広 島教区に新司教 誕生。

教皇は、三月二五日（金）  
イタリア時間正午（日本時  
間、同日午後八時）に高松  
と大分の新司教を任命  
■高松教区新司教  
使徒ヨハネ諏訪榮次郎師



高松教区の溝部脩司教の定  
年による退任願いを受理さ  
れ、新しい司教に、大阪教  
区司祭使徒ヨハネ 諏訪 榮  
次郎師を任命した旨を発  
表。新司教の叙階式は二〇  
一一年六月一九日（日）午  
後二時から高松司教座聖堂  
（桜町教会）で行われた。

### ■大分教区新司教

パウロ 浜口 末男師



長い間、司教座空位であった大分教区の新司教に、長崎教区司祭パウロ浜口末男師を任命。司教叙階式は、二〇一一年六月二十六日（日）午後二時からビーコンプラザ（別府国際コンベンションセンター）で行われた。

教皇は、ローマ時間六月十三日正午（日本時間同日午後七時）に広島新司教を任命

■広島教区新司教

トマス・アクイナス  
前田 万葉師



広島教区の三末篤實司教の定年による退任願いを受理し、新しい司教に長崎教区司祭で、カトリック中央協議会事務局長の前田万葉師を任命することを発表しました。司教叙階式は二〇一一年九月二十三日（金・祝日）午後一時から、広島カテドラル幟町教会聖堂で行われた。

近藤神父・谷内神父の司祭叙階の金祝を祝う

二〇一一年三月二十一日に司祭叙階五十周年を迎えた両師をお祝いする記念ミサとお祝いの集いが、四月二十九日（金・昭和の日）午前十時三十分から北十一条教会で行われた。

司祭、修道者、信徒が約三八〇人参加し、一緒に両師の金祝を祝った。



＝ミサをあげる地主司教とお二方＝

地主敏夫司教は説教の中で、両司祭との思い出をしばらく語った後に、私たち

を実現することにあります。ふたりともそのような考えで奉仕し、五十年間にわたり、キリストの司祭職として自分を捧げてきたことでしょう。司祭は、ある意味孤独であるが、神様が命じ、そうさせているから毅然と奉仕しています。司祭職をこれからも全うできるように、皆様のお祈りをお願いいたします。と結ばれた。



＝ミサ後のお祝いの様子＝

◆勝谷太治神父が銀祝

一九八六年四月二十九日に司祭叙階し、両師金祝のお祝いの日に、司祭銀祝を迎え、パーティー会場で紹介され、参加者から祝福を受けていた。

来道司祭の紹介

◆フランススコ修道会◆  
ヨハネ・ドゥンス・スコトゥス 山谷 篤神父



一九六一年に函館市で生まれ、一九六四年宮前町教会で受洗。一九九二年にフランススコ会に入会し、二〇〇〇年に司祭叙階。田園調布、板橋教会で司祭研修し、田園調布教会助任、三軒茶屋教会主任を歴任し、今年のご復活明けから北十一条教会の主任司祭。

ヨブ 戸田 三千雄神父



一九三四年生まれで、一九

七〇年に司祭叙階。司祭叙階後は、東京教区、大阪教区、さいたま教区で司牧を行い、今回の異動で釧路地区協力司祭として来道。聖アントニオ修道院で共同生活を送り、小教区の司牧を行っています。

◆ヨゼフ 松井 繁美神父  
一九五六年生まれで、一九八四年三月二十五日に司祭叙階。ナルチゾ神父と二人で帯広地区四教会を司牧する。

ヨハネ 山本 遼神父



一九四四年生まれで、一九七三年に司祭叙階。北見地区長として、カリシモ神父と二人で、北見地区五教会を司牧する。

トマス 元田 勝哉神父



一九八一年生まれ、二〇一一年三月二十六日に司祭叙階。札幌フランススコ修道院で共同生活を送り、北十一条教会協力司祭として司牧を行う。

## ▼札幌教区司祭人事異動 ( ) 内は前任内容※大変遅くなりましたが、2011年の司祭移動を掲載致します

2011年3月1日付

### ■札幌地区

北26条教会主任司祭 場崎 洋師 (療養)  
 帰国 (パリ外国宣教会本部気付) エムリク・ド・サルベル師 (北26条教会主任)

2011年4月1日付

### ■札幌地区

北11条教会主任司祭 山谷 篤師 (東京教区三軒茶屋教会)  
 北11条教会助任司祭 ルカ・ボナヴィゴ師 (釧路教会主任)  
 北11条教会協力司祭 石井 健吾師 (瀬田聖アントニオ修道院) 7月20日付で六本木修道院へ  
 北11条教会協力司祭 元田 勝哉師 (新司祭・田園調布修道院)

### ■旭川地区

神居、五条、六条、大町、滝川、砂川教会主任司祭 間野 正孝師 (稚内、枝幸教会主任)  
 旭川地区協力司祭 鈴木 央師 (神居、名寄、士別、大町、五条、六条教会主任)  
 滝川教会協力司祭 ドミニコ・パウア師 (滝川教会主任)  
 砂川教会協力司祭 ローター・ポレンバ師 (旭川神居修道院)  
 美唄教会主任司祭 山本 孝師 (留萌、羽幌教会主任)  
 留萌、羽幌教会主任 マンフレード・フリードリッヒ師 (美唄、砂川教会主任)  
 名寄、士別、枝幸、稚内教会主任司祭 長尾 俊宏師 (北11条教会主任)

### ■釧路地区

柏林台、本別教会主任司祭 ナルチゾ・カバツォラ師 (帯広、池田教会主任を兼務する)  
 帯広地区協力司祭 松井 繁美師 (長野大日向修道院)  
 釧路、新川、中標津、厚岸、根室教会主任司祭 川上 剛師 (北見、遠軽、紋別教会主任)  
 釧路地区協力司祭 マウリリオ・ラザロ師 (厚岸教会担当)  
 釧路地区協力司祭 戸田三千雄師 (さいたま修道院)  
 釧路地区協力司祭 渡辺 義行師 (旭川市内教会協力)  
 瀬田聖アントニオ修道院 内藤 孝文師 (柏林台、本別主任)  
 瀬田聖アントニオ修道院 関口 七郎師 (中標津教会担当)

### ■北見地区

北見、美幌、網走、遠軽、紋別教会主任司祭 山本 遼師 (横浜教区原宿教会)  
 北見地区協力司祭 カリシモ・ロンデロ師 (新川教会主任)  
 六本木聖ヨゼフ修道院 プポ・アルフォンソ師 (網走、美幌教会主任)

### ■函館地区

八雲教会主任 オール・フランソワ師 (湯川教会主任を兼務する)

2011年5月1日付

### ■札幌地区

山鼻、真駒内教会主任司祭 上杉 昌弘師 (円山教会主任を兼務する)  
 休養 (司教館気付) 谷内 武雄師 (山鼻、真駒内教会主任)

2011年8月1日付

### ■札幌地区

研修 森田 健児師 (月寒・新田主任司祭のままで来年7月末迄)  
 月寒・新田教会小教区管理者 新海 雅典師 (小野幌主任兼務、森田師の研修の間)

付記 カトリック教会法第539条の規則に則り、主任司祭が長期にわたり小教区を不在となるため、小教区管理者を選任致しました。小教区管理者は、主任司祭と同じ義務および権利を有すると同時に、主任司祭の権利を害し、又は小教区財産に損害を与える行為をしてはならないと教会法には記されています。

2012年1月1日付

### ■札幌地区

岩見沢教会主任司祭 加藤 鐵男 師 (江別・大麻教会主任司祭兼務)  
 岩見沢教会協力司祭 宮部 登 師 (岩見沢教会主任司祭)

# 国際社会における小教区の現状についてアンケートを実施

札幌教区難民移住移動者委員会(担当:マイレット・ジェームス神父)は、道内の小教区と修道院に、外国人の信徒についてアンケート調査を実施し、十八の小教区と二つの修道院から回答があった。

札幌教区には、年間、五大陸のおよそ二十六カ国の国から来道しており、約二〇〇人の外国人信者がミサに参加している結果となりました。しかし、ご報告を頂いていない小教区もありますので、さらに多くの信者の方がいると考えられます。アンケート結果の抜粋をご紹介しますので、多国籍の人々と共生する共同体づくりの参考にして頂ければと思います。

## ニーズと対応について

・札幌在住の信徒宣教師と連絡を取り、東京からフィリピン出身司祭を呼ぶことがある。

・日本で生まれた子供たちの洗礼後のフォローが必要である。

・求道者で、時折教会にてボランティアしているが、パートを希望している。

・フィリピン人については、時折家庭集会を行っている(教会承認済み)。

・留学生(アメリカ人)の対応が言語の壁により十分になることがある。

・転出入がはつきりしない。

・言語の壁により海外出身者との接触に差異が生じている。

・外国人担当チームを設けたいがメンバー探しが困難である。

・ミサの頻度が少なく、ミサの日以外の曜日や時間での対応が不可能である。

ト

・日本語学習  
・カウンセリング

・一部の人を除き日本人と結婚しているので殆どの事は解決している。フィリピンの女性(日本人男性の妻)は、うえるかむはうす(レイミッシュヨナリ)で貢献してくれている。

・アフリカ(タンザニア)の人はミサに参加している。韓国人は御聖体訪問のみ。

・家庭のサポートを行う必要がある(家庭内暴力の場合等)。

・問題対処に関して教会に戸惑いが残っている。

・それぞれの文化を紹介し、他の視点から自分の信仰と生き方を観察すると多様性も生まれ、良い勉強になる。

・ある信徒(フィリピン人)は同国出身者の子供に英語・タガログ語を教えている。

・フィリピン人については、農業関係や介護・看護関係の従事者であり、季節的及び時間的制約を無視できないため、積極的奉仕は期待できない。

・個々の才能を生かし環境設備や教会行事への参画を通して活躍する外国人もいる。

・教会役員が少人数である為、外国人への対応が困難である。とにかくミサ・集会祭儀に出席して共同体の一員となってもラえればうれしい。

・それぞれの生活で精いっぱいで大変そうである。

・出身国関係無く信徒が協力し合い、個々のタレント性を活かして教会行事を行っている。

・各教会の方は子供が少ないので待者がいない教会がある。今迄待者が不在だった二つの教会にも、ダブルの子供達が訪れるようになり、待者を務めるようになった。

・特にフィリピン人は配偶者が日本人男性で、農家の場合は家の仕事の手伝いで手いっぱいという現

状。

・アフリカ(タンザニア)の女性(既婚者)が英語と自国の語学を子供、一般信者に二〇一一年二月から教え始めた。

・各小教区役員会に外国人が加わりますように。

復活祭のテーマは、『新しい朝を迎える』です。新しい朝の中には、全ての方々が受けられている教会の姿が入っています。これから、お互いに参加しやすい社会と教会を共につくって行くためにも、アンケート結果には具体的な内容がありますので、皆様のご配慮とご協力をお願いできればと思います。

詳細は、各主任司祭と修道院長の元ですでお送りしています。アンケートにご協力いただいた小教区と修道院には心から感謝申し上げます。

## 子供たち

### 私たちの未来の希望

フィリピン信徒宣教師

エディッタ・ザパンタ

サマーキャンプやサマースクール、ハロウィーン、クリスマスパーティー、そ

してウインタースクール等の活動へ参加するのに、母親の手を握りながら子供たちが教会やうえるかむはうすに来る風景を見たのが昨日の事に思えます。それらの活動に参加する様に私が母親たちに勧めたのは、もう三年前の出来事です。その子供たちの成長はめざましく、徐々に自立してきています。

一人の外国人の母親が、彼女の小学校三年生の娘にこう言われたと教えてくれました。「ねえお母さん、お母さんは日本に長い間住んでいるのに、どうしてそんなに日本語が上手に話せないし、聞きとれないの?」。日本語を話すという事は、多くの外国人の親、特に母親にとって、大変難しい課題です。彼女たちはきちんとした語学の勉強の為に学校に通った事が無く、ただ職場の同僚や、彼女達の夫の家族からしか、日本語を習わないからで

す。そんな彼女たちの日本語をしばしば訂正して教えるのは、彼女たちの子供たちです。その子供たちが彼女たちに学校の宿題を手伝ってと尋ねた時は、彼女たちは「自分は外国人で日



うえるかむはうすの活動のいくつかは、サマースクールやウインタースクールの様に、子供たちの宿題を手助けするの目的としています。今年の一月六日から八日まで、うえるかむはうすはダブルの子供たちの支援をウインタースクールにて行いました。

本語がわからないから、お父さんに聞きなさい」と、言わなければなりません。しかし、その父親の多くも仕事で多忙の為、子供たちに付き合っている暇がありません。父親方の家族と住んでいる子供は幸運な事に、学校の通知表やその他宿題・お便りを読むのを助けてもらえます。しかし、外国人の母親が日本人の父親と離婚をした家庭では、誰も子供たちの日本語での生活を助ける事が出来ません。そのような場合、自分たちの日本人の友人や、子供たちのクラスメイトの母親に、それらの事項を自分たちが理解出来る様協力をお願いする母親が何人かいます。

当初は六人の子供たちが参加する予定でしたが、実際には四人の参加となり、その内三人が小学校、一人が中学校の生徒でした。宿題の他にも、うえるかむはうすのスタッフやボランティアから、彼らは外国の料理の作り方も学びました。子供たちと一緒に楽しく時間を過ごし、この活動に貢献して下さった学生ボランティアには大いに感謝しています。この活動の中で、プログラムの一つとしてあげられるのは、「物語の話し術」です。子供たちに、積極的に話す様うながし、また他の話に耳を傾け、物語を共有させる事によって、彼らが自信を持てる様にします。また、そうする事によってビッグブラザー

やビッグシスターとの絆も深めていきます。この様な活動により、うえるかむはうすでは子供たちが人としての自信と尊厳を持つ事が出来る様に支援しています。

千歳では、去年の十二月二十七日に、三人の子供たちが初聖体拝領式を受けました。七ヶ月間に渡って彼らに要理勉強を行ってくださった、千徳神父様には大変感謝しております。これから先、ボランティアの方々が、子供たちの為に要理勉強を行ってくれる様願っています。

帯広では、フランシスコ会のナルチゾ神父様が、子供たちを手厚くもてなして下さいました。去年、五人の子供たちが教理教授のいくつかのセッションの後、初聖体拝領式を受けました。彼らはミサの待者になる為学んでいます。ナルチゾ神父様は、今年も子供たちの堅信の為の要理勉強を行う事を予定しています。

北一条教会では四月より、ダブルの子供たちに、毎週の日曜学校に参加する様勧められています。同教会で去年行われたクリスマスパーティーには、多国籍な

二十二人の子供たちが参加しました。子供たちの間には、言語や人種の壁が存在しません。彼らは一緒に遊んだり、ケーキを作ったりして、楽しい時間を過ごしていました。例え彼らの外国人の両親が教会に来られなくても、彼らはゆっくりと、しかし確実に成長し、毎週ミサや日曜学校に参加しています。ダブルの子供たちは日本人であり、日本語を話す為に、日本語のミサと、英語でのミサ。どちらのミサが彼らにとって馴染みやすく、最良のものであるかを見極めるのが私たちにとってジレンマとなっています。また、うえるかむはうすでも四月より毎週最終週に私たちフィリピンからの宣教師が中心となり、信教教育を外国につながる子供たちの為に行います。

私たちは子供たちの母親たちに、彼らを教会に来させる様促しています。そして今、子供たちは毎週日曜日に来るようになりました。彼らが、彼らの両親と日本の教会によって然るべき道を歩む様に導かれることを心から祈っています。彼らが神への信仰を深めるのを助ける事で、彼らをイ

エス・キリストへと導くの使命です。彼らは、私たちの未来の希望なのです。

## 釧路地区宣司評主催「信徒大会報告」

### 釧路地区宣司評

#### 運営委員長 北川健二

天候に恵まれた八月二十八日、道東地区九教会から一五〇名の参加者で信徒大会が始まりました。

午前中は、川上地区長司式によるミサ聖祭、午後からは当地区の戸田神父の講和という内容の一日でした。

した味わいのある内容で、その思いを共有出来た祈りでした。午後からは、川上地区長による「国際森林年の祈り」から始まり、戸田神父の講和は「創造主の目に映る地球と私たち―地球温暖化の原因と私たちの課題」のテーマです。DVDや手書きの書を交えての九十分間は、一人ひとりの生活や生き方を問い直される内容でした。

私達は、創造主が造られた地球の自然環境を、神から反した自分中心の生き方を優先させ、地球環境を壊し続けているのではないかと？DVDでは、地球の温度が一度上昇すると大地の砂漠化が急激に進み、人類に多くの苦難が待ち構えている様子が伝わってきました。また、合成洗剤における汚染問題が、私たちの生活に及ぼす影響の大きさを、改めて知ることができました。地球環境の異常を見て、自己中心の生き方に気がつくことが回心の始まりであり、神・隣人・被造物・自分自身との和解になると話さ



された。また、合成洗剤における汚染問題が、私たちの生活に及ぼす影響の大きさを、改めて知ることができました。地球環境の異常を見て、自己中心の生き方に気がつくことが回心の始まりであり、神・隣人・被造物・自分自身との和解になると話さ

れた。

戸田神父は最後に、「私発」でスタートとしましう、と呼びかけられました。地球規模で考えることが出来ても、その理解が、足元の行動につながらないと、結果が出ず、何も変わりません。そして回心も和解も実を結びません、今、各自が居るところ、暮らしているところから始める。つまり「私から出発しよう」と強く話されました。

最後に地区長の祈りと「ひとりの手」を皆で唱って、講話を終わりました。

今回から昼食の時、教会毎に会場を分けて食事をするのが皆の交わりの場となることを願いましたが、教会単位で集まってしまいう傾向は例年通りで、少し残念な気がしました。各教会が交われる年一回の集まりを有意義なものに変えてゆきたいものです。また、参加者の一五〇名というのも毎年ほぼ同じです。より多くの人の参加を促せるよう魅力ある集いにしてゆくことも課題です。

た。また、信者ではない、幼稚園の教諭五名が参加してくれたことも大きな収穫でした。来年の集いでは「私発」がどう実践されていたかを、聴き合う場も是非持ちたいと願う祈りのうちに報告を終わります。

### 『ぬくもり』

#### パストラルケアの訪問

北海道臨床パストラルケア研究会が、六月から心の訪問ケアを開始

スピリチュアルな痛みをもっている方、何か苦しう誰かに話を聴いてほしいと思っている方はお声をかけてください。伺わせたいただきたいと思えます。訪問は、パストラルケアワーカー（カウンセラー）が一人の会員と一緒に二人で伺います。時間は三十分から一時間の予定です。ご自宅など訪問を希望される場所をお知らせ下さい。お問い合わせします。訪問の申し込み先は、下記の通りです。ご連絡をお待ちしています。ただ、訪問に際し、私たちにいくつかの限界があります。

一つめは、心の病で病院に通院したり入院している方への訪問です。精神神経科の医師に診察・治療を受けている方は、病院で専門家の援助を受けて下さい。私たちは精神的な病を持っている方へケアするトレーニングは受けていないため、心の病で治療中の方の訪問はさせていただくことができません。どうぞご了承下さい。

二つめは、訪問地域の限界です。訪問できるメンバーはまだ札幌の数人です。ので、訪問可能な地域から始めさせていただきたいと思えます。

三つめの限界は、看護や介護を行なうことができないという事です。私たちはお話を伺うことしかできません。時間も限られていますが、あなたの言葉に耳を傾け、心をあなたに向けてお話を伺わせていただきたいと思えます。

■訪問の申し込み先  
TEL 〇九〇―五〇七二―七七六一

■受付時間 十時～十七時  
■パストラルケアワーカー（カウンセラー） 白鳥 栄、角田 久栄

### 「パストラルケア」とは？

「パストラルケア」あまり聞き慣れない言葉でしょう。パストラルケアのそもそもの意味は、キリスト教のPASTOR（牧師）が、臨床的に患者の霊的（スピリチュアル）苦痛をケアするための専門的コースを習得して資格認定され、医療施設で患者におこなうスピリチュアルケアという意味でした。そこから、パストラルケアとはスピリチュアルケアつまり心と魂のケアということが出来ます。

では、スピリチュアルケアとは何でしょうか。私たちは病気になったときに身体的な苦痛だけではなく、精神的（心理的）、社会的、更に霊的苦痛（スピリチュアルな痛み）を含む「全体的痛み」を苦しみます。それぞれの苦痛に対して身体的ケア、精神的（心理的）ケア、社会的ケア、そして霊的ケア（スピリチュアルケア）を必要とします。霊的苦痛とは、霊（心、魂）が求める欲求（ニーズ）が満たされない時に生じる痛みで、その痛みが心の「叫び」によって表現されるも

のです。その叫びに應對するものが霊的ケアです。人は身体的、精神的、社会的、霊的な側面をもっているもので、病気のときに限らず、霊的苦痛を感じます。霊的苦痛をもっている人にケアするのがスピリチュアルケアであり、パストラルケアです。数十年前に来日されたヴァルデマール・キツペス氏（レデンブートル会社祭）は、病気でスピリチュアルな痛みをもっている人にスピリチュアルケアがなされていないことに気がつきました。そこで日本にスピリチュアルケアを根付かせ、人々が必要なスピリチュアルケアを受けることができるようにと活動を始めました。今ではNPO臨床パストラル教育研究センターを立ち上げて、パストラルケアを実践できる人を育てていらっしやいます。

私たちは、センターの理念に賛同し、キツペス氏の呼びかけに応じて研究会を作りました。研究会には、センターでの研修を受けてパストラルケアワーカーの認定を受けた人、認定を受ける途中の人がいます。ともに北海道で、必要な方が、必要なパストラルケアを受けることができるようになります。

今年三月からは「ミニミニ講演会」をはじめました。第一回は山谷幹子さんの「私の生き方―病気をいただいて」を聴かせていただきました。聴いている自分自身の心の叫びに気づかせていただく体験となりました。これからも月一回どなたかのお話を伺う「ミニミニ講演会」を開く予定です。どなたでも参加できます。

けることができるようになります。そのために、2年前から月一回の学習会を開き抄読会を行なっています。

第四金曜日の十八時十五分から二十時まで、北二十六条教会をお借りして、『スピリチュアルケア』『スピリチュアルな痛み』と読み進めているところです。スピリチュアルケアに関心のある方でしたらどなたでも参加できます。



# メリノール宣教会創立百周年を祝う

十月十日(月・体育の日)、苫小牧のグラントホテルニュー王子のホールで、会場一杯の参列者を迎

えて、菊地功司教の司式で、創立百周年を祝うミサが行われた。当会アジア管区長のアルフォンソ神父や地主

敏夫司教をはじめとする十八名の司祭団が参列。

メリノール宣教会は一九一一年六月二十九日に創立で、今年の六月で一〇〇周年を迎えていました。苫小牧や室蘭、旧三笠や夕張、長沼の信者さん、マックやダルクなどの関係者が数多く参列。その活動の多様性を物語っているようである。会場の入り口横には、歴代のメリノール会司祭の若かりし赴任当初の写真が掲示されており、懐かしい顔が、来場者に笑いかけていました。



## 札幌地区中央ブロック高齢者シオンの会 大震災で今自分が出ること考える



には、西洋の尼さんと親しみをもって、被災状況や漬物などについていろいろ話をして頂いたことを紹介。

上杉神父やボランティアに行かれた方々からの宮古ベースでの活動の様子が、ボランティアに行った先と現在も親交が続いている様子などが紹介された。札幌教区サポートセンターは、現在、仮設住宅での移動カフェやサロンでの傾聴活動が主流になっていることが説明され、夏場以降、ボランティアの数が減少傾向にあるため、ボランティアのリーピートや、健康に自信のある高齢者の方々の参加が求められているような気がする。

十月十五日午前十時から、北十一条教会を会場に、ボランティアに行かれたベネディクト女子修道会のSr.天野の講和、上杉神父からの宮古ベースの活動の様子などの話を聴き分かち合った。最後に、参加者の寄せ書きを集めて、宮古に送った。



Sr.天野は、宮古教会主任司祭の了解をもらい、修道服のままボランティアに参加し、最初は興味津々で接していたカフェに来場した被災者の方々が、数日後

## 訃報

神様のみもとでの安息をお祈りください。

### ◆殉教者聖ゲオルギオのフ ランシスコ修道会

Sr. M・ジェンマ相田 和



六十五年間の修道生活を送り、六月十三日に肺がんがもとで、入院先の石狩茨戸病院で神様のみもとに召されました。

藤高等女学校に在学中に洗礼を受け、初誓願後の四十年間は、主に幼稚園と養護施設の分野で全力を尽くして、一関藤の園、岩見沢、札幌などで奉仕し、青森の藤聖母園で一番長く過ごしました。戦災孤児や恵まれない子供たちのマザーとして、明るい雰囲気を作り、元気にどこでも喜んで自分を与えました。

また、共同体の院長を歴任し、八年間札幌マリア院の院長を務められた。高齢のため二〇〇三年からは花川マリア院に移り、二〇〇九年からは入院生活を送っ

ていました。  
享年八十九歳。

【略歴】

1921年12月14日  
札幌で生まれる  
1937年12月7日  
受洗

1946年3月18日  
入会

1949年1月6日  
初誓願

1954年10月2日  
終生誓願

1998年8月11日  
金祝

2008年3月29日  
ダイヤモンド祝

2011年6月13日  
帰天

◆マリアの宣教師

フランススコ修道会

Sr.ルチア前田力枝

六十四年間の修道生活を  
送り、肝臓がんのため入院  
先の天使病院にて八月三十  
日午後十一時二十五分に神  
様のみもとに召されました。  
享年八十六歳。

【略歴】

1925年2月18日

栗沢町で生まれる

1946年12月15日

入会

1953年12月15日

終生誓願  
2011年8月30日  
帰天

◆トラピスト大修道院

ミカエル島田喜代志修道士

四十七年の修道生活を送り、修道院で急に具合が悪くなり、函館の病院に搬送され、入院治療を施していましたが、胆のう異変のため九月十五日午後十二時三十分に神様のもとに召されました。

享年九十二歳。

【略歴】

1919年5月

藤枝市に生まれる

1949年12月25日

受洗

1964年12月

入会

2011年9月15日

帰天

◆殉教者聖ゲオルギオの

フランススコ修道会

Sr.M・オイゼビア渡部 静香



五十一年間の修道生活を  
送り、膠原病が元で、十一月  
十七日北海道医療センター  
において神様のもとに召さ  
れました。初誓願後の十四  
年間は札幌の寄宿舎で学生  
のために全力を尽くして奉  
仕し、旭川で四年間生徒の  
ために尽くしましたが、体  
調がすぐれなくなり、新田  
マリア院に転院し、十四年間  
老人ホームの仕事とマリア  
院のお手伝いをしました。

最後の時に至るまで、主の  
苦しみに合わせて自分の苦  
しみを捧げつきました。

【略歴】

1935年8月27日

紋別郡生田原生まれ

1957年12月24日

紋別教会で受洗

1960年3月18日

入会

1963年1月12日

初誓願

1968年8月12日

終生誓願

2011年11月17日

帰天



編集後記

お詫び

一年間教区ニュースを  
発行できずに申し訳ござ  
いませんでした。新年度  
は、年三回の発行を目標  
に何とか頑張ってみよう  
と思っております。宜しくお  
願います。

つながりで紡ぐ強さ

Ⅱ人の価値は  
態度で決まるⅡ

ある新聞のコラムで、皆

さんご存知の政治学者の姜  
尚中さんが大阪の定時制高  
校で十代〜五十代の生徒二  
十一人に授業を行った記事  
が掲載されていた。  
それぞれの事情をかかえ  
ているだろう生徒に、姜さ  
ん独特の口調でご自身の半  
生を語り始めたという。  
幼い頃は成績優秀、野球  
が得意の地元・熊本の「お  
山の大将」。それゆえに、  
本音を胸にしまいこんでも  
きた。次第に引つ込み思案  
になり、高校では引きこも  
りに。「精神的に不安定な  
十代でした。多分皆さんと

同じ」。その言葉に、緊張  
してうつむいていた生徒も  
前を向き始めた。  
「でも学生運動を通じて無  
二の友と出会い、救われた。  
みんな今、友達はいますか。  
どう？」と一人ひとりに問  
いかけると、コクリコクリ  
とうなずく生徒たち。「友  
はいるか」と尋ねたのは、  
東京・秋葉原の無差別殺傷  
事件など、内にこもって自  
滅する若者が後を絶たない  
社会を憂うからだ。友を得  
ることは人を信頼すること。  
と。人を信頼することは自  
分の殻を破ること。「人と  
のつながり」が生きる力に  
なることを、孤独に悩む若  
者たちに知ってほしいと姜  
さんは願う。熱を帯びてき  
た話に、みんな身じろぎも  
せず耳を傾ける。「友は五  
十歳を前にガンで他界しま  
したが、大切なことを教え  
てくれました。」そして三  
つの言葉を黒板に書く。「創  
造」「体験」「態度」。最後  
の「態度」にグルッと○印  
をつけた。

「友は最後まで、生き抜  
くという凜とした『態度』  
を示してくれた。人は人を  
評価する時に、どれだけ新  
しいことを創造したかと  
か、どんな素晴らしい体験  
をしたかということを問  
いがちですが、本当はそんな  
ことではない。」  
人間の価値を決めるの  
は、その人が「周囲にどん  
な態度を取ることができ  
るか。」ということだ。「この  
ことを一番伝えたかつ  
た。」と姜さんは微笑んだ。  
下を向く生徒は、もう誰も  
いなくなつた。授業を終え  
て姜さんは「人とつながり、  
その一瞬一瞬を精一杯生き  
抜くことこそが尊い。」と  
語っていたという。

文字にすればわずかな紹  
介記事ですが、実際には、  
大切な多くのことを生徒た  
ちに語りかけられたことで  
しょう。そして、この授業  
の中に、教会として、今、  
わたしたちがなすべきこと  
が示されているように思え  
ます。「独り」でいる人た  
ちを独りにしないこと。独  
りである一人ひとりとつな  
がり、その一瞬一瞬を神様  
の愛・み旨を実現するため  
に、態度をもって示すこと  
が大切なのだということ  
を……。新年を迎え心を新たに  
して、被災地の方々と共に  
いることを考えましよう。  
(編集子)